

## コムスのほほえみ南観音

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470204284		
法人名	(株) コムス		
事業所名	コムスのほほえみ南観音		
所在地 (電話番号)	〒733-0035 広島市西区南観音2丁目9-19 (電話)082-532-1801		
評価機関名	(社)広島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒734-0007 広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成19年4月17日	評価確定日	

(情報提供票より)(19年3月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	22人	常勤	18人, 非常勤 人, 常勤換算 4人

## (2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建て	1階 ~ 3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000円	その他の経費(月額)	約18,000円	
敷金	有( )円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(312,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無	
食材料費	朝食	実費 円	昼食	実費 円
	夕食	実費 円	おやつ	実費 円
	または1日当たり 約1,000円			

## (4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	8名	要介護2	6名		
要介護3	10名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	69歳	最高	98歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平林病院	シムラ病院
---------	------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「コムスのほほえみ南観音」は、運営主体が全国規模のよく知られた介護事業法人である。当ホームは、広島市の西に位置した交通便利のよい場所に、3階建て3ユニットでそれぞれのユニットは入居者の個性をあらわした雰囲気づくりがされている。個室においても、その人ならではの住まい方が感じられる。また、玄関先にはベンチを配置し、お天気の良い日は編物など楽しむ入居者もいて、その人らしさを大切に「メモリーケア」(コムスの認知症ケアの呼び方)の自立支援に向けた取り組みを行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 全国統一の運営理念を定着するための努力は継続されており、日々は職員間で理念を共有する事に努めている。自由でリスクに主きを措かず人間らしい暮らしを、ホームの目標にして自立支援に向けて取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 近隣にマンションや会社が立ち並び、商業地と住宅地が入り混じった町並みで、日常的に気軽に町内の付き合いが出来にくい環境ではあるが、日々の買い物や暮らしを通して、少しずつ顔見知りをつくるなど努力がされている。今後も地域との関係を断ち切らないよう、更なる関係づくりを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 出席者は、3つの町内会長・民生委員・包括センター・家族の方々・当センター長と管理者等で、2~3ヶ月に1度開催されている。身近かでホーム入居者が地域イベントに参加できるよう(盆おどりの見学など)話し合わせ実行されているが、主な会議内容は、ホームの報告がほとんどで、今後は様々な議題を投げかけ、地域の智恵を借りるなどして更なる運営が行われていく事に期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議の内容は、その都度家族に報告され、また家族からは日々の介護のあり方や、不安、不満があればその都度電話などで話し合い解決するよう努力がされており、問題点があれば更に職員間でしっかり討議し運営に反映されている。さらにフリーダイヤル(ハローコムス)に直接コール出来る体制も整っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日々の暮らしのなかでは、通り向かい側の、保育園とのつながりや、観音中学校や桜ヶ丘中学校の来訪など少しずつ地域との関係に努めているが、今後は受け入れだけでなく更に工夫を重ね地域交流を図って欲しい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳と自立を守り支援する企業理念をホーム内に掲示し、朝礼の際には全員で唱和し、毎日の介護に生かすよう努力がされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の方々の尊厳を守り、自立した暮らしが営めるようサポートし、共につくると言った温かな住まいを、管理者と職員が造るよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの出入口は、オープンにし気軽に立ち寄れるようにされている。又日常の買い物などを通して顔馴染みをつくるなど少しずつ地元の人と交流するように努めている。		近隣住民との交流は、しにくい地域ではあるが、管理者及び職員は更に積極的に地域に働きかけて行かれる事を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は管理者、職員間とで十分で話し合い改善すべき点は努力し取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2～3ヶ月に1度行われており、また会議の内容はその都度家族に報告し、意見を貰いサービスの向上にいかしている。		運営推進会議では、ホームからの報告が主になっており、今後は議題を投げかけ地域の智恵を借りながら更なる運営をされて行かれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの責任者は、市町村の担当者とグループホーム交流会とのパイプ役などにもなっており、サービスの質の向上にも積極的に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の個々の状況に応じて、その都度家族に報告を行っており、意見、希望の受け入れも聞く体制が出来ている。また関係職員の退職時には家族に報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族の意見・苦情等を聞き、何でも話し合える雰囲気づくりに心掛けられており、フリーダイヤル(ハローコムスン)への紹介も行い、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に大きく影響を与えないように、管理者、職員がダメージを必要最小限に防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修は定期的に本社の研修制度を取り入れて行っている。日常の業務内での情報交換や研修は社内研修を受ける機会が確保されている。		社内研修を受ける機会は確保されているが、職員の育成に少しバラツキが見られる。今後は他の機関への研修等にも出来るだけ参加するなど更なる取組みに期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行っていない。		同じ法人内での交流はあるが、他の同業者との交流、ネットワークづくりはされていない。今後、交流する機会をつくりサービスの質の向上に向けて努力される事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には事前にホームの入居者との雰囲気などに馴染まれるよう、本人、家族によく説明を行い一日も早く暮らしに慣れて頂く配慮がされている。また、入居時に馴染みのものを持ち込んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の楽しみ事を一つでも多く見つけ、暮らしの中に取り入れ一緒に家事や作業をしたりして共に支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中では、利用者の希望や意向を会話や表情から把握するよう努力されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	当ホームはセンター方式を取り入れており、日常のケアのあり方について本人、家族からの意見を反映し介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて介護認定の申請の支援・プランの変更など介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その人の状況に応じては、幾つかの事業所の医療連携加算などを活用し、医療機関との連携を行うなどして出来るだけ柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医や提携医への受診や、利用者・家族の希望に応じて適切に医療を受けられる支援がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、入居時に本人又は家族と話し合い今後の対応に向け検討し、この方針は共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームの理念にもある、“それぞれの方の尊厳を守り”言葉遣いや態度に気をつける配慮がされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ一人ひとりの心に寄り添った生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は主に職員が行うが、配膳や食後の片付け等は職員と和やかにやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望にあわせて、昼間・夜間を問わず支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自発的に日々の役割や様々な楽しみなどは、職員と共にやり、喜びを分け合いながらの生活を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもった生活にならないように、毎日の散歩など外出が出来ない利用者には、玄関外にベンチを置くなどして外出の支援を工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は常にオープンになっており、チャイムやセンサーなども設置しておらず鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練、避難訓練は利用者と共にやっており、訓練は利用者にも前もって告知しているので特に問題はない。又避難に際しては「火元から遠ざける事が大切」で通り前の保育園の協力も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	喫食管理表を付けるなどして、常に摂取量が把握できるように確保している。また、摂取に障害などある場合は医師の指示を仰いでおり、水分補給も職員が工夫しながらの支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や浴室の脱衣所はゆったりとしたスペースがあり、リビング等も居心地のよい空間づくりがされている。玄関前には季節感のある可愛い花々が彩り良く植栽され心とむ配慮が伺える。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに応じて畳を引いたり、馴染みの家具や趣味の品などが飾り付けてあり、その人にあった清潔で居心地よく暮らせる配慮がされている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 コムスのほほえみ南観音 1階 ひまわり

所在地 広島市西区南観音2丁目9番19号

記入年月日 19 年 3 月 28 日

記入者 職 ユニットリーダー 氏名 網本妙美



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	一人でも多くの高齢者の尊厳と自立を守るを企業理念として、毎日の介護を行っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	コムスの誓い、グッドウィル十訓を、毎日朝礼で唱和している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。			

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。			
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。			
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価は職員が、何時でも読めるところに置いて える。		改善したい部分はたくさんあるが、なかなか出来ていない。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。			
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホーム長より、定期的な伝達がある。 スタッフ間で確認しあっている。		言葉使いについては、気をつけていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>			
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>			
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	毎月知らせている。		体調の変化等、変わった事があればその時点でお知らせしている。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>			
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>			
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	日中は、三人体制で行っている。		スタッフの異動があれば、三人確保するのは難しい。出来るかぎり人数確保していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>			
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	社内研修は受けている。法人内外の研修は受けていない。		他機関の研修にも参加していきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>			参加出来ていないので是非定期的に設けてほしい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	電話相談窓口はある。しかし、利用していないのが現状である。本社である為、もっと身近で安心して相談が出来る場所がほしい。		ストレス軽減についての取り組みは、個人々に任されている現状である。
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>			日常忙しさに振りまわされている状況。向上心を持って働きたいと常々思っているが、そう出来ないのが現状である。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">安心と信頼に向けた関係づくりと支援</div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	入居前に聞きとれる範囲で、話を聞く。		入居後も話しをしていく中で思いを受け止め安心していただく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前、入居後必要に応じ話しを聞くよう心がけている。		話しやすい状況をつくり、何時でも相談が出来るよう心がけていきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じ出来る範囲で行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。			
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかないよう過ごしているが、時にそうなる場合があるので、その点を気をつけていかねばならない。		一人ひとりに今以上に時間をかけ接していきたい。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	必要に応じ、ホームでの過ごされている様子を知らせたり、月1回お便りにて知らせている。		必要に応じ、家族とも相談しながら行っている。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族の思い、本人の思いを受けとめて支援している。		ご家族、本人の思いが食い違う場合は多々あるが、十分にお話を聞き少しでも安心した状態で過ごして頂く。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき た項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に来られた時、電話がかかってきた時にコックリと話し、また過ごしていただく。		折にふれ、お話をうかがったりする。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が中に入り話をしたり、レクをしたりして過ごす。		気の合う人が談話されている時は、見守る。一人で過ごされている時は職員が見守りをしたり話しかけたりする。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からのお話も聞きながら、日常の様子をみながら判断する事も多い。		今以上に事細かく希望、意向を把握し、日常のケアに活かしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に一通りのお話を伺っている。入居されてからも、会話をする状況を細かく把握していく。		今までの生活環境をそこねないように、暮らしていただく。しかし、集団で暮らす中で必要に応じ、こちらに合わせていただく事もある。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの現状を職員が把握し、ケアを行っている。		心身の状態が日により変動のある方もあるので、状況をみながら対応している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、ケアマネ、職員と話し合いを持ちながら計画を作成している。		話し合いの機会を今以上に持っていききたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	例えば危険を伴う場合、本人の心身状態に変化があった場合は、必要に応じ家族と連絡をとり計画変更を行う。		急を要する場合は、職員の判断で行い、ホーム長、家族へは連絡となる場合がある。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、記録に記入している。		ケアが重なる時があり、記録が細かく記入出来ない時がある。出来るだけ細かく記入していきたい。
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。			

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	デイケアに通所している。 地域の人々と接する機会がある。		今後は、他ホームとの交流をしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医に定期的に通院をしている。 通院出来ない方には、往診にて対応、また体調が悪くなられた時には、他病院にて対応する場合もある。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医の支援はない。		専門医の支援を受けながら、職員が相談できたり利用者が往診、治療を受ける事が出来るようにしたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期訪問の看護職がいる。		電話相談は、何時でも受けられるので必要に応じ行っている。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合、職員が病院に行き、利用者の状況を見ながら、また看護職の方にも聞きとりをおこない現状の状態、退院にむむけての判断を相談している。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に家族に話している。            その後については、繰り返しの話し合いは行われていない。</p>		<p>本人、家族との話し合いを繰り返し行っていき、全員で方針を共有していかなければならない。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>			
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>前もっての申し送りを行う。            ホームでの状況を、こと細かく知らせる。            必要に応じ電話連絡にて伝達。</p>		<p>本人が不安にならないよう話し合いを持つ。            その時に少しでも十分納得されるように時間をかけ行う。</p>
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人ファイルは、書庫に入っている。            記録簿は、職員以外の目に触れないように記録する。</p>		<p>記録簿記入時、開いた様になっている事があるので、その都度綴じるよう気をつける。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>話しやすいに雰囲気をつくり、利用者の言葉に耳を傾ける。            出来るだけ分かりやすい言葉で伝える。</p>		<p>利用者一人ひとりに対して時間をかけ接したい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的には、本人の意志を尊重して過ごしていただきたいが、他の入居者との関わりもあり、こちらのペースで進めて行く事も多い。</p>		<p>出来るだけ一人ひとりのペースを大切にしていきたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容、美容には、身体的面での事もあり、ホームに来てやっていただいている人が多いが、お元気な方には近所に行っている。		自分で更衣される方は、自由に服を選ばれており、そうでない方は、スタッフが選ぶ事が多いので今後は、出来るだけ利用者と一緒にしようとしていきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事便り等、利用者と一緒にしている。		食事便りに関しては、手伝って下さる利用者の方は決まっているので、他の方にも片付け等、手伝っていただけるよう取組んでいきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。			
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表にて、一人ひとりのパターンを把握する。		医師の指示のもと、薬を使用する事もある。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴は出来るので、利用者の身体状況にあわせて声かけを行っている。		利用者一人ひとりに対して、もう少し時間をかけていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人部屋なので、利用者に合わせて冷暖房を使用したり、また掛け布団の調節を行う。		眠れない場合は、お茶を飲んでいただいたり、お話をしたりして落ち着いていただく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活の中での食事作り、掃除、洗濯たたみ等を行う。		レクリエーションにもっと積極的に取組んでいきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は預かっているが、必要に応じ何時でも購入出来るようにしている。		職員が購入する事が多いので、出来るだけ利用者と一緒にいきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	時期にもよるが、気候の良い時は散歩等を行う。		外出の機会を増やしたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	初詣、お花見、紅葉がり等を行う。		外食、デパート等に出かけたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や知人から電話がかか来た時は、ゆっくりとお話していただく。 必要に応じ、こちらから電話し利用者になる事もある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問された時は、居室でゆっくり過ごしていただく。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム内を自由に移動出来る。 ただし、転倒の危険性のある利用者には、家族に了解のうえ身体拘束を行っている。(必要な時間帯)		身体拘束をしないケアの実践について、常に職員間で認識を持ちながら行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関に鍵はかけていない。 居室も鍵はかけていないが、夜間に関しては利用者によってはかける方もおられる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に把握に気をつけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の目にふれない場所、手の届かない場所に置く。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	薬は二人のスタッフにて確認を行う。 食事中は、見守りを行う。 夜間においては転倒の危険性が高いため、見守りを常に行っている。		徘徊の危険性があるので、常に見守り、居場所確認を行う。 ガスの元栓は締めている。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	救急救命講習を行っている。		日頃から職員間で訓練を定期的に行っていく必要がある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。			
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	必要に応じ行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調異変の時は、すぐに提携医に連絡をとり受診している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理解し、症状の変化の確認に努めている。		常に確認を怠らないようにする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取を行っている。 運動の面については、足りてない。		利用者によっては、水分摂取が少ない方もおられるので、しっかり摂っていただき、運動もしつかり行っていただくようにしたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	夕食後は、全員歯磨きをされ、義歯ははずしボリドントにつけている。		毎食後行っておられる方は、一部なので今後は全員行っていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリー計算は行っている。 水分摂取量は、毎日記入している。		水分量については、しっかり飲んでいただくようにしているが、足りてない方もおられるので、しっかり摂っていただくようにする。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種を利用者、職員実施(インフルエンザ) 消毒、うがいを医師の指示により行う(MRSA) 塩素系で毎日、またその都度掃除 必要に応じ、薬使用 実行している。		手洗い、うがいを今後も続けていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理用具、布巾は毎日(毎回)消毒を行っている。 食材はほとんど配達だが、足りない物はほぼ毎日近くのスーパーに買い物に行く。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の鍵は、日中開いたままである。 玄関外へベンチがある。		近隣の人達に、もっと自由に出入りしてほしい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じるようお花を飾ったり、お雛様を飾ったりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを窓側などに分散して配置し、自由に座り過ごせるようにしている。		もう少し配置を工夫して、今以上に良い空間を作りたい(利用者がくつろげるように)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅での生活空間に近い状態で過ごせるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者の声を聞きながら温度調節は行っている。 窓を開けたり換気は常に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差が無く、手すり等設けてあり、また居室扉は引き戸なので自由に出入り出来る。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	短い言葉で話しかけ、必要に応じ誘導する。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑があり、花を植えたりしている。 玄関外にベンチが置いてある。		自由にベンチに座れる。

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 コムスのほほえみ南観音 2階 コスモス

所在地 広島市西区南観音2丁目9番19号

記入年月日 19 年 3 月 28 日

記入者 職 ユニットリーダー 氏名 廣本 正志



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-----------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	運営推進会議の実施		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「コムスの誓い」の唱和		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議の実施 ケアプランの作成、家族への指示		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。			
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。			町内会長の紹介で昨年、地域の盆踊り大会に参加

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。			
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。			
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。			話し合いをするにも参加者が少ない。 但し、会議後に報告書を作成、家族等へ配布
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内会議にて勉強会 身体拘束がやむを得ない場合、家族への説明、同意を得て改善する努力をする		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前、入居時に契約に関する説明を行う。		ご家族の都合等で契約時の説明が不十分ではと感じることあり。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者、ご家族には何でも意見、不満、苦情を言って下さいと説明している。		表せる機会というものは、設けられていない。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に1回のお手紙での報告、必要に応じて電話、手紙による報告を実施。		職員の異動に関しては不十分。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム外でも、本社にコールセンターを設置。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	社内会議		会議数が少ない。 そのような機会が設けられていない。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員確保のための求人募集 離職しないための工夫		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動は、必要最小限度に抑える努力をしている。            異動は、利用者の支援を優先</p>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>本社会議、研修の実施            研修は、外部から講師を招いて実施することもあり。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>会議、研修の実施            地域の同業者への訪問活動</p>		<p>地域の同業者の交流会に定期的ではないが、参加することあり</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>公休の確保、離職しないための工夫            可能なら有休の取得            残業を軽減するように努力をしている</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入居前に面談、聞き取り            入居前会議の実施</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	当ホームの説明 困難事例等の説明		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	可能な他のサービスの提案		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能なら、利用者、ご自身にもホーム見学に来ていただいている		過去、事前に体験ホーム利用を実施した利用者あり
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀しみを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「コムスの誓い」の実践		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。			
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ケアプランにセンター方式を取り入れている。 本人と家族との関係に関する情報収集		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や電話での会話		終え墓参り 帰省
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。			
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			退去利用者への訪問 手紙や電話での交流がある方もある(ごく一部)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「コムスの誓い」の実践		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前後のご家族、ご本人からの聞き取り把握		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の介護記録、カンファレンス、ケアプラン作成		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全てではないが、カンファレンス時に家族に出席してもらうこともあり。 家族には、報告、連絡、相談は徹底している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者が入院し、退院後に新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入、ケアの実践、結果を集計している		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能性とまではいかないが、柔軟な支援が出来るように心がけている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議への地域包括支援センタへ職員、民生委員の参加。 避難訓練時の消防署員の参加。 イベントへのボランティア参加		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の希望は聞くようにしているが、多くの入居者、家族はこちらにまかせている状況である		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師の交流はなし 認知症専門医と公表している病院へは、相談をしたことはある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	地域の介護職ではないが、医療連携体制加算を取っており、訪問看護婦に相談することはある		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院に関しては、病院が決めることであり退院の相談があれば、早期退院に努めるようにしている		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>ご家族には看取りの指針を交しており、可能なら対応する。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>会社としては、基本的なルールを決めている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>転居先、関係者と面談、情報交換</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>社内、プライバシーマーク取得</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>			
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>			<p>ニーズが分かり難い方に対してニーズを引き出す努力が必要</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に美容院に行かれる入居者あり		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者が一部配膳や片付けをされる		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師のOKがあれば、お酒、タバコも可能		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	夜間の一部の入居者以外は、トイレでの排泄支援		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望やタイミングに合わせて入浴される入居者も少数あり		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。			

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。			
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金所持は、基本的に禁止している(ご家族の同意済)		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出支援を積極的にするように努めているが、その日の希望に対しては対応できないこともある		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。			
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は基本的に自由にやり取り可能 ただし、職員が仲介する		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関も夜間を除き施錠されておらず、面会時間も夜間以外は自由である。 宿泊される家族もあり		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者の身体に危険をおよぼすおそれがある場合、拘束(ベット柵のみ)している。家族には、同意済み。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関やユニット入口に鍵をかけたことはない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	実施努力している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険防止の取り組みをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	実施、努力している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	年1回ホーム内で消防署による救急救命講習を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難誘導訓練の実施(消防署員付き添いのもと) 夜間時の火災を想定して訓練したこともあり		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起り得るリスクについて、家族に説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	様子観察に終わるのではなく、医師等への報告、相談、速やかに通院対応するように努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の把握、変更にもきちんと対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分不足、運動不足による便秘を防ぐようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後とはいかないが、最低日に1回は口腔ケアをしている。必要に応じて歯科医も利用している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分量は、毎日チェックしている。 カロリー計算は、おおまかではあるが一応は把握している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	入居者、職員の手洗い、うがいの実践。		ノロウイルスが流行との話があり、消毒液をノロウイルスに有効なものと交換。
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	買い置きや冷蔵庫への詰め込みすぎには注意している。 賞味期限も		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	バリアフリーで段差はなく、スリッパを収納しており、スッキリしている。 玄関入口、外には花を植えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を採り入れた装飾。 バリアフリーに配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングを開放しており、自由に使ってもらっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は入居、仮住まいと考えるのではなく、入居者自身の部屋と考え持込みなどにあまり制限をもうけないようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	配慮、気をつけるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置。 段差なしなど、バリアフリーに配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一部入居者は調理、洗濯、掃除などをしていただいている。できる範囲で自立した生活を送っていただくよう努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りにベンチ、園芸スペースを設置、ひなたぼっこ等楽しめるようにしている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 コムスのほほえみ南観音 3階 すずらん

所在地 広島市西区南観音2丁目9番19号

記入年月日 19 年 3 月 28 日

記入者 職 ユニットリーダー 氏名 宮川都子



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	企業理念である、コムスの誓いをホーム内に掲示して、毎日の朝礼で唱和している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に基づくケアの実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	定期的に運営推進会議を設けている。 ご家族や地域の方々の理解と協力を得て、共に暮らしていけるよう努力をし、取り組んでいく。		定例の会議には忙しい為に出席出来ないご家族様もおられる。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	ホームには分かりやすいよう、大きな看板を掲げ、何時でも気軽に立ち寄って頂けるよう出入口をオープンにしている。		住宅街ではあるが、近隣はマンションと会社が多い為、隣近所の方々と日常的な付き合いが少ない環境となっている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加盟して、地域の行事や盆踊り等に参加できるようにしている。		地域で開催している囲碁や将棋等に認知症であることを理由に参加を断られることもある。参加したがっておられる入居者がおられる為、参加できるように働きかけたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現実の取り組みまでには至っていない。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価での改善すべき為に取り組むよう努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での地域の方々やご家族様への報告や話し合いを行い、意見を出して頂いてサービスの向上につなげるようにしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームの管理責任者が取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	スタッフの研修やホーム会議等で制度の理解につとめ、利用者様の状況に応じて応援できる体制を整えている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者の虐待防止については、社員研修やホームでの学習で教育を徹底させている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様やご本人様に十分な説明を行い、ご理解と納得むをして頂けるようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	不満や苦情を受け付ける窓口を設けている。日常的な関りの中で何でも言いあえる雰囲気作りを心がけ、利用者様の思いを汲み取って日常のケアに活用するようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ケアプランの更新の都度、または個々の状況に応じて、ご家族様への報告をさせて頂き、ご意見やご希望、ご意向等を伺うようにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的な事に関しても気軽に管理者や職員に話して頂き、ご家族様の意見やご要望をとりいれて対応を行うようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見を聞く事はあるが、実際の運営には反映されない事が多い。		職員の意見や提案を受け入れ働きやすい環境やケアサービスの提供が十分に行えるような環境に改善していく必要がある。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員不足の中での勤務の調整が行われており、業務の見直しや改善を行う必要もある。		必要最小限度の職員の確保や、常勤職員が職場からぬけるので業務体制の見直しに取り組む。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>そうあるべく努力はしている。</p>		<p>突然の職員の理職や職員の異動があるため、そのようなことを防ぐ配慮が行えるよう取り組む。</p>
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員に対する新入社員研修、定期的に本社への研修制度をとっており、日常の業務中での情報の交換や知識の交換等が行えるようにしている。</p>		<p>それでも不十分な状況にある為、他の研修の案内等を職員が見られるようにして、自発的な民間の研修等にも参加できるように取り組む。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>行っていない。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>行っていない。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>勤務年数や実績に応じてホーム長への昇進の道をもうけており、ヤル気を持って働けるような雇用体制作りをとっている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入居に関するアセスメントを行い、ご本人様の希望も含めた支援のサービスの提供を行っている。(入居後に分かった事も支援内容に含めている。)</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居に関してご家族様とも話し合い、ご本人様の状況を伺うと共に、ご家族様のご意見や希望ご要望等も伺うようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前情報に基づいて、介護計画を作成し、支援項目についてご家族様に確認をして頂き、承認のご署名とご捺印を頂いている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居時にホームの雰囲気や他の利用者の方に慣れて頂けるよう、ホームの説明をしたり、他者の紹介をしたりして、ここで暮らしていく環境に慣れて頂くよう配慮を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護は、ご本人様が出来ないことのみを支援するようにして、日常生活の中で一緒に家事や作業を行い、お互いに相談したり話し合ったりしながらレクやゲームにも参加するようにしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が面会に来られた時は、その都度状況を報告させて頂き、またご家族からのご相談も行うようにしている。		必要のご報告をさせていただき、ご意見やご希望やご要望等を伺うようにしている。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族様との関係が、良い方と悪い方がおられ、ご本人様のホームでの生活や介護に無関心なご家族様もおられる為、本人側からの定期的なご連絡をとるようにしていない。		ご本人様の日常の生活振りや状況の変化等をもっと小まめにお知らせ出来るよう差しさわりの無い程度に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>毎日の散歩や、買い物に出かけていただく。 行きつけや、かかりつけの病院に通う。 行きつけの美容院や散髪屋に行く点を行っている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>入居者様同士が、話をしながら洗濯物をたたんだり、声をかけあってトランプ等を行っている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退去した後は、連絡も途絶えてその後の生活は分からない状況となっている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ご本人様との日常のつき合いで、その思いや意向をその都度汲み取り、対話が困難な方でもその方の表情や様子から重いを汲み取るようにしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご本人様やご家族様に聞いて、趣味や嗜好の把握も行い、状況の経過やサービス利用の経過等も把握しておくよう努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>スタッフ全員の目で見えた状況を総合的に持ちあって個々の情報として、共有するようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常のケアを通じてご本人様の状況を確認しあい、必要な支援や対応の仕方についてその都度話をしながら、意見をまとめて介護計画の見直しと次回の計画の作成を行っている。		介護計画の作成について、ご本人様やご家族様とのその都度話し合いを行うのは難しく、意見や希望等を伺って介護計画に盛り込むようにしている。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の内容について、ご家族様等に確認していただいて同意の署名と捺印を頂いている。状況の変化・介護記録の更新・入退院ごとにプランの変更・新たな作成を行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌やバイタルチェック、水分チェックと共に個人のケース記録をつけて、1ヶ月ごとのまとめを行い、毎月の変化や気づきがその都度分かるようにして、介護計画の見直しに役立てるようにしている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	他の事業所のディケアに通っている方もおられる。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方をお願いして、民謡、日舞、フラダンス等をホームで披露して頂く。 警察、消防署への連絡が、常時とれるよう支援体制を整えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	行われていない。 他のサービス事業者のサービスの利用としてディケアを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ホーム長が、対応している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームの主治医や提携医への受診と共に、ご本人様や、ご家族様の希望があれば、在宅時のかかりつけの病院に通院をして頂いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医へは、ディケアでも利用しており、必要があれば主治医の紹介で専門の病院に受診して診察治療を受けることができる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護との医療の提携を行っており、定期的な看護師によるバイタルチェックを行っている。 相談や対応の指示も受けている		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院対応で行うか、医療機関との連携を行っている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>ホーム側、主治医、ご家族様との話し合いを行い、すみやかに対応が出来るよう早目の検討を行うようにしている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ターミナルケアは、行っていないため、状況に応じて主治医やご家族様との話し合いを行い、今後の対応に関する検討と準備をおこなっている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>説明の出来る方には、理解と納得をして頂きそうではない方には、不安や混乱が起らないよう、納得できる理由や次の環境を住み心地良くする等で、スムーズな住み替えが行えるよう配慮している。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの尊重や確保を心がけて、言葉使いや対応の都度に気をつけるようにしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>常時声かけや、スキンシップ、言葉かけを行うようにして、ゆっくり分かりやすく説明をしながら、ご本人様の意志に基づいて何事もしていただくようにしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>それぞれの入居者のペースで、生活をしていただいている。ご自身のしたい事や楽しみたい事は、積極的に行って頂き、状況に合わせて声かけ等の支援も行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備は、職員が行うがお茶入れや、配膳、食後の茶碗拭き等は、役割を持って行っていただいている。		各人の好物を採り入れた献立を日々ま食事に盛り込んで、一緒のおやつを作るなどして取組んでいきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自由に外出や買い物を行って頂き、菓子・タバコの嗜好品を購入して頂き召し上がっていただいている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄に応じた、必要な支援と介助を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々の希望する時間に合わせた入浴を行って頂いている。 夜間の遅い時間での入浴も行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝を日課としている方もおられる。 一人ひとりのペースに合わせて、生活をして頂いている。 夜間は、定期的な巡回を行い室温や寝具等の調整を行い、安眠の確保の為の支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	自発的な家事への参加や役割分担をこなして頂いている。日々の楽しみごとや気晴らしのゲーム・一緒に歌を唄う等スタッフや入居者同士で声を掛け合っ一緒にしている。		ホーム全体のレクやゲーム大会等の盛り上がる取り組みもしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の状態に応じて行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自由に散歩や外出を行っている方もおられる。他の方も天気の良い日や、体調の良い日は、一緒に散歩や買い物に出かけるよう心がけている。		入居者の通院が多く、毎日の買い物もあって一人ひとりの希望で散歩等の外出や、ゆったりとした散歩に出かける等の支援が行届かなくなっている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	実施されていない。		月間のスケジュールを組んで取り組む日を設けることが必要。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望で自由に電話をしたり、手紙を書いたりされている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご面会の方々の礼儀作法をする事を心掛ける。 必ず、お茶をお出しする。 一緒に食事を楽しんで頂く。 宿泊が出来るよう寝具の用意をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。			
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。			
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。			
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。			
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。			
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。			

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練や避難訓練は、入居者と共に行っているが、地域の人々の協力が得られる所までにはいたっていない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	状況の変化に応じて生活リスク等に関して、ご家族様への報告や相談を行い、ご家族様のご意向を伺った上で、どのように暮らしていただくのかの対応策を講じるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の方の体調の変化や異変の見られる時に、すみやかに主治医への連絡や報告を行い、主治医への受診を行うと共に必要に応じて専門医への紹介をして頂くようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は、ホームで管理し一人ひとりに手渡して頂くようにしている。 お薬手帳で処方されている薬を管理し、主治医の指示を守って服用して頂いている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	定期的に通院の都度、ご本人様の日常の状況を主治医に報告している。 トイレチェック表をつけて、排便の管理を行っている。 水分をしっかり摂って頂くようにしている。		適度の運動や体を動かす為のレクやゲーム、散歩等をもっと多く取り組む必要がある。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食事の献立は、栄養士のたてた献立を使用している。 全員の口腔ケアを行っているが不十分である。		自立度の高い人の本人任せの歯磨きが、磨き残し等が生じている。 定期的に歯科医への受診で、口腔チェックを行い、指示やアドバイス等を

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	喫食管理表、水分チェック表をつけて、個々の食事量や水分摂取量が分かるようにしている。 食事の摂取に問題のある方は、主治医の指示による栄養補助食品を使用し、水分量の少ない方には、好物等を取り入れて工夫して飲んで頂くようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルがあり、対応の取り決めに基づいて実施されている。 全入居者が、インフルエンザの予防接種を受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	キッチン点検表をつけて、毎日の衛生管理に努めている。 食材は、毎日の買い物と食材配達会社の食材を使用している。毎日の冷蔵庫の点検を行い、賞味期限切れの食材は置かないようにしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	誰の目にもつくように親しみやすい大きな看板をかけている。玄関は、常にオープンにして何時でも出入りできるようにしている。 玄関先には、花を植えて誰もが腰掛けるようベンチを置いて、アットホームな雰囲気作りをしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空調や換気、証明に配慮している。 (日当たりも良く、風通しも良い造りとなっている。)		生活感や季節感を採り入れた居心地の良さが不十分。季節の花を生けるとか、家庭的な雰囲気が感じられるような飾り付けや調度品を置く等の試みに取り組みたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	トイレや浴室は、プライバシーが確保できるようになっており、ゆっくり、落ち着いて使用できるようになっている。廊下、リビング、和室等へは、気のあった入居者同士で思い思いに話をしたり一緒にゲームや工作を楽しむようになっている。		徘徊者が、他者の使用中に入らないよう入浴時やトイレ時の見張りを行うようにしている。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の好みの家具や使い慣れた物を置いて、生活をされている方もおられるが、必要最低限度の身の回りの物しか持ってこれない方もおられる。		居室が殺風景で落ち着かない方には、絵や花を飾るとか写真を貼ることで少しでも部屋らしい雰囲気が感じられるように心がけている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各部屋には、温度計をかけてより室温の調整が小まめに行えるようにしている。		居室にトイレを置いている方には、臭いがこもらないように換気に気をつけて、消臭剤等を使用するようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホームはバリアフリーで、車いすの方でも安全に行動が出来る設計となっている。 廊下、トイレ、浴室等には、手すりが取り付けられている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、風呂場等には、分かりやすいように工夫している。入浴時は、入浴中の札をかける等で使用中である事が見て分かるようにしている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの敷地内に花壇があり、花や野菜が植えられるようになっている。三階建ての建物の為、花壇の利用が不十分となっている。ベランダはあるが、狭い為ゴミペールを置いて、洗濯物を干すだけで一杯となってしまっている。		洗濯物や布団を干すだけでベランダが一杯となり、鉢植えやプランターを置くのも不便となっている為、利用の仕方や工夫が必要。毎日、花壇の手入れをしたり、花や野菜を植えて見に行けるようにしたい。